

ヒペリカムの品種選定と新しい生産体系

花き部

1 背景、目的

ヒペリカムは、従来にない実付きの切り枝花木として注目され、花束やフラワーアレンジメントの花材として需要の拡大が期待されており、最近では多数の品種が育成されています。しかし、これまでは露地季咲き栽培が主体で、出荷時期が6月頃に限られていました。今後の更なる生産振興を図るためには、長期出荷できる生産体系の確立が必要です。

そこで、本県に適した有望品種を選定するとともに、生態を解析し、施設栽培による作期拡大を狙った新しい生産体系を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「エクセレントフレアー」(果実色：茶色)と「ピンキーフレアー」(赤色)は、着果数が多く、切り枝としてのボリュームに優れます。また、果実が桃色で新規性のある「ミスティックフレアー」も有望です(表1)。
- 2) 加温促成と無加温促成及びその二度切り栽培の組合せにより、3月から7月、9月から11月に出荷することが可能です(図1)。
- 3) 無加温促成後の二度切り栽培では、切り下株から新梢をそのまま仕立てることで9~10月出荷が、また、8月上旬に新梢を切り戻しすることにより、11月に出荷できます(表2)。

3 主要なデータなど

表1 ヒペリカムの無加温栽培における品種比較

品種名	果実色	平均収穫日	切枝長	切枝重	着果数	サビ病抵抗性	特徴	総合判定
		月/日	cm	g	個			
エクセレントフleaー	茶色	6/13	110	58	15.7		ポリュームあり	
スcaレットフleaー	茶色	6/15	95	41	12.1		果実小さい	×
クイーンフleaー	茶色	6/ 6	64	27	9.5		切り枝短い	×
キングフleaー	茶色	6/15	107	64	10.4	×	果実大きい	
ロイヤルフleaー	茶色	6/10	92	39	8.8	×	茶色濃い	
ピンキフleaー	赤色	6/16	111	57	13.2		ポリュームあり	
ハニフleaー	桃色	6/19	98	37	9.3		桃色淡い	
ミスティックフleaー	桃色	6/10	97	43	12.1		桃色鮮明	
アビフleaー	緑色	6/ 9	95	44	8.5	×	サビ病に弱い	

- 注) 1.平成13年 3月定植の 2年生株を供試し、自然日長、無加温条件下で栽培
 2.着果数は上位 2節の花房を残したシングル仕立てとして調査
 3.サビ病抵抗性と総合評価は本作型における達観で評価 : 優れる、 : 普通、× : 劣る

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
加温促成 3月 + 6~ 7月出し栽培	10 加温			自然日長 無加温											
加温促成 4月出し栽培	5 加温					自然日長 無加温									
無加温促成 5~ 6月 + 9~ 10月出し栽培	自然日長 無加温									自然日長 無加温					
無加温促成 5~ 6月 + 11月出し栽培	自然日長 無加温									自然日長 無加温					
無加温 6月出し栽培 (無処理 対照)	自然日長 無加温														

記号: 定植、電照 (暗期中断4時間 開始、電照終了、× 切り戻し、 遮光 (58%)、収穫期

図1 ヒペリカムの新しい生産体系

注) 本作型は、「エクセレントフleaー」で実証したもので、2年目以降も据え置き株で継続して収穫が可能

表2 秋出し二度切り栽培における台刈りの有無の影響

切り戻しの有無	切枝長	節数	切枝重量	開花始め	収穫始め
	cm	節	g	月/日	月/日
無	80	22	48	9/2	9/22
有	61	17	28	10/22	11/13

- 注) 1.「エクセレントフleaー」3年生株を用い、8月1日から収穫時まで電照を実施
 2.採花終了後の6月11日から8月6日まで遮光率58%の資材で遮光
 3.切り戻しは8月1日に新梢を約7cm残して行い、株当り15本程度に整枝